

市民活動の情報発信と交流の場をつくる ホームページ・データベースとPR

市域の広いさいたま市では、市民活動サポートセンターに関する情報、市民活動団体の発信する情報を広く伝えること、市民・市民活動団体相互の交流を実際に市民活動サポートセンターに来なくても行えることが重要です。そのために、サイト(ホームページ) やそれと連携した市民活動データベースづくりを、市民、指定管理者、行政が協働して行ってきました。(p.50-57,62-63)

市民活動を市民に知ってもらうことは、市民活動をサポートする重要なことでもあるため、そのPRについても重視し、市民の感覚を活かして考えています。(p.50-57,64-65)



様々な背景と知識をもった市民と管理運営する指定管理者、発注者である行政で詳細な検討をしながらつくった市民活動サポートセンターのサイト(ホームページ <http://www.saitamacity-support.jp/>)。市民活動に必要なデータベース機能(市民活動団体の基礎情報・活動情報、イベント情報など)をもっている。2008年3月現在では、ワークショップのプロジェクトチームと指定管理者・行政で協議し、オープン後に指定管理者がつくることとなった機能(FAQの充実、市内の市民活動に使える施設の紹介、市民活動団体・市民同士の交流機能など)はまだ完成しておらず、今後の「成長」が期待される。(p.56-57,62-63)



専門性をもった市民で構成されたプロジェクトチーム(情報支援PT)で構成・内容からデザイン、図版作成まで行った、オープン直前の「プレ・サイト」。(p.56-57,62-63)



広告宣伝の知識をもった企業経営者、デザイナーなどが参加してつくられたプロジェクトチーム(PR-PT)が、指定管理者・行政とともに構成を考えたパンフレット。この表紙の幾何学的な図形は、さいたま市市民活動サポートセンターの平面図(p.45)を抽象化したもの(ワークショップ参加市民がデザイン制作)で、PR-PTが提言したCI(Corporate Identity)的なトータルデザインのツールとして、封筒や名刺などで活用されている。(p.56-57,64-65)